

特集「新しいパラダイムの中での 分散システム/インターネット運用・管理」の編集にあたって

渡 辺 健 次^{†1}

本特集号は「分散システム/インターネット運用技術研究会 (DSM 研究会)」が中心となって企画したものである。

インターネット・ブロードバンドの普及につれて、技術の進歩や社会の情勢の変化に応じた新しいパラダイムが台頭する中で、分散システムの運用管理の分野においても、つねに新たな課題に取り組む必要に迫られている。そこで本特集号では、台頭してきた新しいパラダイムの中での分散システム/インターネットの構築、運用において、技術の進歩や社会の情勢に応じた新しいネットワークサービスに関する技術、方法論、分散システムの構築・運用事例、さらには社会科学的な考察を含めた研究論文を一括掲載し、本分野の研究の推進と発展に寄与することを目的として企画された。

本特集では、これまでに DSM 研究会が企画した特集の中では最も多い 52 編の論文が投稿された。これらの投稿論文を 26 名からなる特集号編集委員会により、通常の論文査読と同じメタレビュー方式で査読を行った。その結果、最終的に 22 編の論文を採録することとなった。

学会誌 48 巻 11 号で紹介されているように、DSM 研究会は LAN・WAN やコンピュータシステムの運用管理に日々携わっている方が発表できる機会を作るために創設された。研究会での発表を通じて、システムの構築・運用・管理において様々な創意工夫を研究会で共有すると同時に、分散システムの運用管理を研究分野の 1 つとして創造した。その研究活動の成果を論文としてまとめる機会を提供するために 2000 年より特集号を実施してきた。特集号は分散システム/インターネットの構築・運用に関する研究成果の掘り起しを図る効果が大きく、すでに 10 年近く実施してきたことで、この分野の研究者に広く認知されている。今回の特集号の投稿数が多かったことから、特集号の順調な発展をうかがい知ることができる。まさに「継続は力なり」である。

DSM 研究会は、2008 年 4 月から「高品質インターネット研究会 (QAI 研究会)」と統合し、新たに「インターネットと運用技術研究会 (IOT 研究会)」となる予定である。今後も IOT 研究会が中心となり、最新のテーマを掲げて特集を発行する計画であるので、これまで以上に積極的な投稿をお願いしたい。

最後に、本特集をゲストエディタ制により企画する機会をいただいた論文誌編集委員会と、優れた論文を投稿していただいた著者の方々に感謝したい。また、ご多忙の中、多数の論文を短時間で査読していただいた上、指導的な査読にご協力いただいた査読者各位、ならびに多くの作業にご協力いただいた学会事務局に感謝する。

「新しいパラダイムの中での分散システム/インターネット運用・管理」特集号編集委員会

- 編集長
渡辺健次 (佐賀大学)
- 編集委員 (五十音順)
安東孝二 (東京大学), 石橋勇人 (大阪市立大学), 一井信吾 (東京大学), 今泉貴史 (千葉大学), 上原哲太郎 (京都大学), 齊藤明紀 (鳥取環境大学), 齊藤栞朗 (会津大学), 敷田幹文 (北陸先端科学技術大学院大学), 土屋 哲 (株式会社富士通研究所), 中村 眞 (シャープ株式会社), 西村浩二 (広島大学), 萩原威志 (新潟大学), 萩原洋一 (東京農工大学), 長谷川明生 (中京大学), 林 英輔 (麗澤大学), 藤崎智宏 (日本電信電話株式会社), 藤村直美 (九州大学), 前田香織 (広島市立大学), 榊田秀夫 (京都工芸繊維大学), 松浦敏雄 (大阪市立大学), 宮下健輔 (京都女子大学), 宮地利雄 (JPCERT/CC), 武蔵泰雄 (熊本大学), 山井成良 (岡山大学), 山之上卓 (鹿児島大学), 吉田和幸 (大分大学)

†1 佐賀大学理工学部知能情報システム学科